

哲風会通信

2015.7.Vol.43

1年の折り返しの7月になりました。7月7日は七夕です。七夕という笹に短冊をつけてお願いをする日というイメージですが、始まりは子供の成長を願う「節句」の一つです。お願いごとに〇〇が欲しい等と短冊に書いているのを見かけますが、習い事の上達や発展などをお願いすることが始まりだったようです。

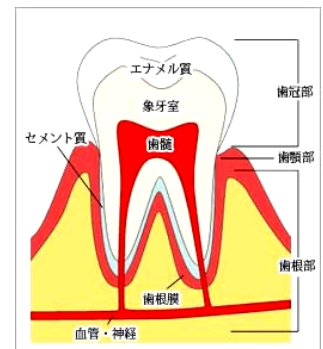


歯の神経

最近お笑い芸人ハリセンボンのはるかさんが長年「チャームポイント」と言っていた神経が死んで黒くなった歯を抜いて白い綺麗なブリッジを入れる治療を受けて話題になりました。

『歯の神経が死んでしまう』とは聞いたことがあると思いますが、虫歯で神経をとる以外に神経が死んでしまうのはどんな原因があるか知っていますか。

まず歯の構造は右図になります。歯の中心には歯髄と呼ばれる細かい血管や神経が入り込んでいる場所があります。歯髄はその血管を利用して歯に栄養を送る働きをしています。その他にも虫歯の細菌が歯の内部に侵入しようとするのを防御しようとする働きなどもあります。



痛みがほとんどないまま歯髄が自然と死んでしまう主な原因

1. 虫歯の進行の影響

虫歯が象牙質に達すると、歯髄は冷たいものがしみたり、痛みを出すなどのサインを送ってくれるが、虫歯菌が深く侵入しないように必死に修復や防御を繰り返し痛みが慢性状態になったまま数年経過すると歯髄は次第に弱っていき死んでしまう。

2. 以前の治療の影響

以前の虫歯の治療の際に歯髄にごく近いところまで虫歯が進行していたがその時は神経を取らずに保存していても歯髄近くに潜伏していたごく少量の虫歯菌によってゆっくりと神経を蝕むためにそれほど痛みを感じずに数年後に神経が死んでしまう。

3. 打撲など機械的刺激の影響

口元を強打したり、物がぶつかったりして歯に強い衝撃が加わったりするとその時は痛みが落ち着いたとしてもしばらくしてから神経が死んでしまう。

神経が死んだまま治療しないで放置すると…

神経が死んだ直後には自覚症状がほとんど無いため、自分で気がつくことは少なく歯の表面の色が気になって歯科医院を受診した際にレントゲン撮影をして発見されることがほとんどです。神経が死んでいることが確認できた時は、神経や血管が入っていた空間内で感染を起こしすでに根の先に膿が溜まっていることが多いので、痛みが無かったとしても歯の内部に穴をあけて腐っている神経の残骸を取り除き内部を無菌化して埋める必要があります。

痛みが無くても慢性状態で炎症が進行し体調不良や機械的刺激などがきっかけで強い痛みや腫れを伴う急性状態へ変化することがあるので早めの治療が必要です。



今月の通信担当



むさしデンタルオフィスの石川です。昨年末に不注意で右手の小指の付け根を骨折しました。

怪我から半年が経過した先日、最後の整形外科受診をしてきました。骨はしっかりとくっついて日常生活にはほとんど支障はないものの小指の曲げ伸ばし角度や握力のチェックを行い、正常な左手との差がかなりあることにビックリしました。たかが小指されど小指です。

人間の身体はほんの一部でも欠けたらダメなのだと改めて実感しました。(歯1本でもですよ！)

医療法人 哲風会
むさしデンタルオフィス

〒010 - 0912
秋田市保戸野通町4 - 8
TEL:018-853-8214
フリーアクセス:0800-800-8461

医療法人 哲風会
ちづ歯科クリニック

〒018 - 1605
南秋田郡八郎潟町川崎字昼寝
233 - 1
TEL:018-875-2801